

独立行政法人 労働者健康安全機構 釧路ろうさい病院

地域医療連携総合センターだより

I. 緩和ケア病棟が来年春に開設されます

II. がん治療と仕事の両立支援について

発行: 令和 3 年 6 月 釧路労災病院地域医療連携総合センター



理念: 最新の知識と技術に基づき、良質で信頼される医療を実践します。

I. もっと身近に・・緩和ケア病棟を来年春に開設いたします

当院は「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受け、根治的手術、抗腫瘍薬投与、放射線治療等のがんに対する集学的治療を展開するとともに、令和元年 8 月には緩和ケア内科を設置し、地域の皆さまが安心してがん治療を受けられる環境づくりを行ってまいりましたが、いよいよ来年春には「緩和ケア病棟」を開設することとなりました。

釧路・根室医療圏で初めての「緩和ケア病棟」

わが国では 24-25 万人の人口規模が緩和ケア病棟の成立の目安だとされていますが、釧路・根室医療圏は人口約 30 万人を抱えるにもかかわらず、これまで緩和ケア病棟がありませんでした。全国の三次医療圏の中で緩和ケア病棟が設置されていないのはここだけです。全国ではがん患者の 6 人に 1 人が、最後の時間を緩和ケア病棟で過ごしていますが、釧路・根室医療圏で発生する毎年約 1,200 名のがん患者さんにだけはその機会がなく、これを解消しようというのが私たちの取り組みです。



【2021.2.19 北海道新聞に掲載されました】

「緩和ケア病棟」は“生きる”場所

緩和ケア病棟というと、終末期の患者さんが死ぬまでの時間を過ごす(“死を待つ”)場所というイメージをお持ちの方が多いかと思います。確かにがん患者さんに最後の時間を少しでも穏やかに過ごしていただくことは大事なことです。しかし私たちは、緩和ケア病棟を開設するにあたっては、もう一歩進んで、がん患者がよりよく“生きる”ための場所を作ろうと目指しています。がん治療が進歩した結果、現在では、がんを患いながらも仕事をし、家庭を守り、自分のやりたいことをやり続ける方がたくさんおられ、そういう“がんサバイバー”の生活を支えることも私たちの緩和ケア病棟の役割の一つにしたいと思っています。

患者さんを支えるチーム医療

このために私たちはチームで緩和ケア病棟を運営しようと思っています。医師、病棟看護師、薬剤師、心理師による最新の緩和医療・ケアの実践はもちろんのこと、たとえばリハビリテーションスタッフは患者さんの ADL(日常生活動作)の評価と維持・改善に努め、管理栄養士と歯科医師・歯科衛生士は患者さんの食生活の充実を図ります。医療ソーシャルワーカーや退院調整看護師は患者さんが慣れ親しんだ自宅・地域で過ごすための様々な手配を行います。今は新型コロナウイルス対策のためにむずかしいですが、時期が来たら地域のボランティアの皆さんにも患者さんの病棟での毎日の潤いづくりに参画していただきたいと思います。これらにより、私たちは緩和ケア病棟を“生活”する場所にし、患者さんが家や会社に復帰することを応援する場所にもしたいと思っています。



